

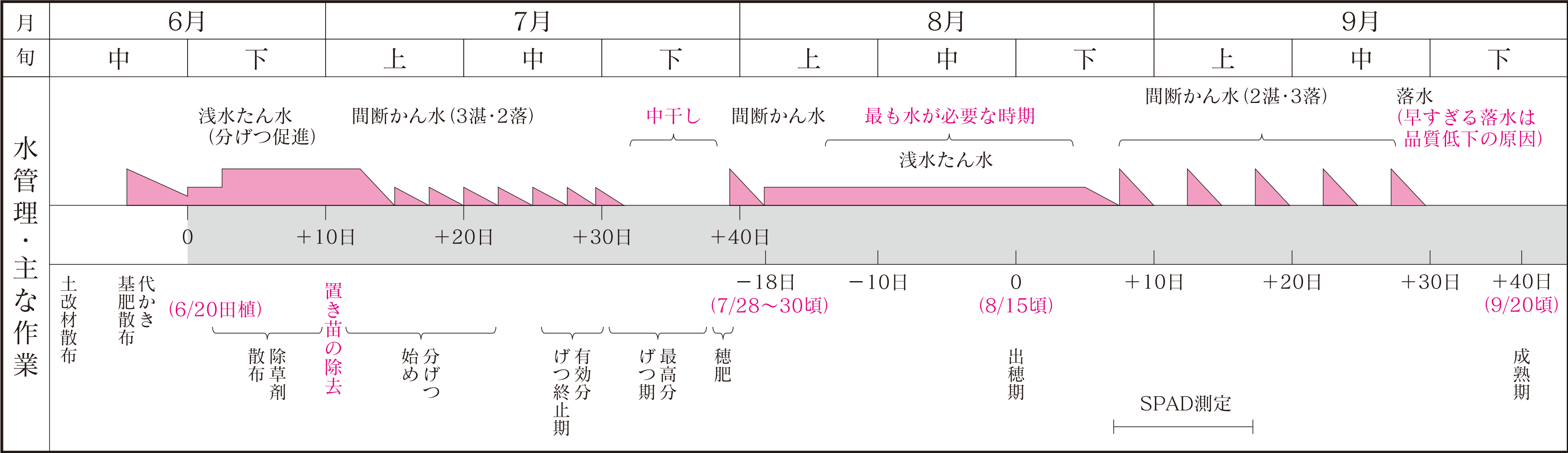
令和7年産 特別栽培米 夢つくし 栽培こよみ

農薬適正使用スローガン

- 1.散布前に必ず農薬ラベル確認！
2.散布時は、近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底！
3.水田では、除草剤散布後の止水期間(7日間)を遵守！
- 4.散布後は、必ず散布器具(タンク・ホース等)を洗浄！
5.防除履歴は、正確に記帳！

筑前あさくら農業協同組合
三輪地区特別栽培米部会

○主な作業と水管理 〈夢つくしの平坦地水管理例(6月20日田植)〉



- 田植後10日～2週間は活着促進とジャンボタニシ予防のため浅水たん水を行う。
- 田植30日後 (1株莖数20本程度) から中干しを開始する。(中干し期間は7日間程度で強すぎないようにし、その後は徐々に間断かん水を行う。)
- 幼穂形成期～出穂～開花期は水が最も必要な時期なので浅水たん水を行う。
- 台風接近時は深水にして風によるしおれを防ぐ。
- 充実を良くするため落水は収穫前7～10日に行う。

○育苗基準 (老化苗・病害防止のため23日苗とする)

1.種子	全量種子更新
2.用土	土は10a当たり、あさくら培土4袋。
3.種子消毒	専用機械で温湯消毒を実施する (60℃で10分浸漬) ※必ず乾粕を使用し、温湯で時間を厳守すること。
4.浸種	浸種は7日程度行い、水替えは1日1回行う。 芽出しは1mm程度とする。
5.播種	播種量は1箱当り催芽粕で130g (1.1合) を基準とする。
6.平床育苗	生育促進、もみ枯細菌病等の予防として、苗箱は日当たりが良く、風通しの良い場所に並べ、被覆資材で被覆する。 徒長防止のため苗の長さが4～5cm位になった被覆資材を除去する。(7日程度) ※箱施薬剤は、確実に1箱あたり50g施用しないと防除効果が劣る。 ※栽植密度は、60株／坪。(目安 19cm×30cm) ※ジャンボタニシ発生田では浅水管理を行い、スクミンベイト3を散布する。

○土づくり

資材の分類	資材名	施用量 (10a当たり)	備 考		
有機質	万能堆肥	2t	腐植の増加 土壌通気性、保水性の向上 耕起前に硫酸10kg／10aを施用（麦わらの分解促進） 間断かん水の励行（根痛み防止）		
	麦わら	全量			
ケイ酸質	けい酸加里	40～60kg	カリの供給 微量元素の供給 鉄分の供給 石灰の供給	ケイ酸の供給	登熟向上 倒伏防止 病虫害予防
	ミネラルG	200kg			
	ケイ鉄				

○施肥基準

肥 料 名		基肥	追肥	(kg/10a)		
				N	P	K
一 発	有機エムコート355 (100日)	55		7.15	2.75	2.75
分 施	スーパーユーキくん2号	45		5.4	2.25	2.25
	スーパーユーキくん3号		20	2	0.6	1.6

○除草剤使用基準

薬 剤 名	使用料	処理時期(田植後)	浅植え 根が露出しやすい条件では、葉面が生じるリスクが高まります。 植穴戻り不良 代かきから日数があると、土が締まり植穴の戻りが悪くなります。
キマリテ	1キロ粒剤 1kg フロアブル 500ml ジャンボ 10バック	0～10日	
カチドキZ	1キロ粒剤 1kg	0～10日	水稲 処理時 土
	薬粒 250g	3～10日	
ゼータプラス	1キロ粒剤 1kg	0～14日	
	フロアブル 500ml 200FG 200g	3～14日	

※広葉雑草が多い圃場では、処理時期内の早い時期に散布する。
※除草剤散布後は、1週間程度落水口を閉め、湛水状態を保つ。

田植同時(当日)に除草剤を使用する際は
右記条件では薬害が発生しやすい

条件	要因
根の露出	浅植え・浮き苗
	麦わらによる植え付け不良 土壌が固く植え穴が戻らない
漏水田	代かきが不十分 モグラの穴による漏水 ほ場の水持ちが悪い

○病虫害防除基準

○箱施薬(は種時～田植当日)1回

防人箱粒剤(いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、ウンカ、コブノメイガ)

(いずれか1剤使用50g/箱)

ブーンゼクテラ箱粒剤(いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、ウンカ、コブノメイガ)

○本田防除(8月中旬)1回

液剤…

ロムダンゾル(1000倍)(コブノメイガ、イネツトムシ)

ノンプラスバリダフロアブル(1000倍)(いもち病、紋枯病)

スタークル液剤10(1000倍)(ウンカ、カメムシ)

(出穂、開花期は使用を避ける)

補正防除については、病虫害の発生状況に応じて行う。

注) 農薬、肥料は令和7年1月9日現在の登録状況に基づき、記載しています。